

戦争の記憶から平和へ向かって

丘山 願海

(おかやま がんかい)

さまざまな願いや希望をもって迎えた21世紀も、今年で20年になります。当時、おそらくは世界中で多くの人々が平和な世紀となるように願ったことでしょう。しかし、今、この20年を振り返ってみると、地上世界には相も変わらず紛争が絶えず、とくに弱い立場におかれた人たちが犠牲になっています。人類の歴史は、大げさに言えば、戦争や紛争の歴史だったともいえましよう。そして今、世界では排他的で自分中心の考え方が、国家単位でも、個人単位でも、臆することなく堂々と主張されるようになってきています。

しかし、私たち人間は、過去の歴史に学ぶことの大切さも知っています。

宗門では、アジア・太平洋戦争への関与についての反省から、平和に関する調査研究や平和学習をすすめてきました。そして総合研究所では、平和の論点整理をすすめ、「貧困の克服」を含む平和のための具体策を提示し、平和学習会用の視聴覚教材として映画『ドキュメンタリー沖縄戦 知られざる悲しみの記憶』を制作しました。さらに本年度より新たに、宗門総合振興計画にもとづき、アジア・太平洋戦争当時の寺院を中心とした被災等の状況について、アンケート調査を行うことになりました。戦後75年を経て、歴史の記憶が薄れていくなか、これらの調査研究を行い、歴史資料として残し、平和の学びを深めていくことは、私たちが過去の悲惨な歴史を二度と繰り返さないためにも、不可欠なことです。

「共に生きる」ことをその根本とする大乘仏教の精神や、宗門の掲げる「自他共に心豊かに生きる」とのできる社会の実現に貢献する」という願いも込めて、このたび実施する戦時被災等に関するアンケート調査に、積極的なご協力をお願いいたします。

(浄土真宗本願寺派総合研究所長)